

新発田青少年健全育成市民会議だより

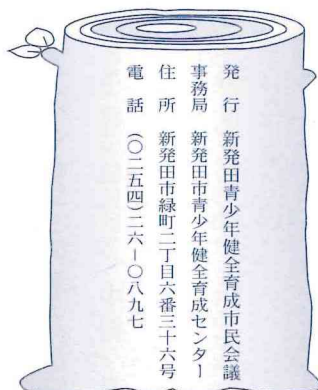
はばたき

市民みんなで手をたずさえて

児童センター“豆まき”

(平成20年2月2日)

福の神のお兄さんも
登場し、会場は子ども
たちの熱気と歓声に
包まれました



発行 新発田青少年健全育成市民会議
事務局 新発田市青少年健全育成センター
住所 新発田市緑町二丁目六番三十六号
電話 (〇二五四)二六一〇八九七



お面づくりや
楽しい
ゲームコーナー

青少年健全育成講演会(要旨抜粋)平成二〇年二月二六日
人権問題としてのいじめとその予防と対策



上越教育大学大学院教授

わかい やいち
若井 彌一 先生

「いじめ」の定義

○これまでは、いじめの定義として、

- ・自分より弱い者に対して一方的に、身体的・心理的な攻撃を加えること。

とされてきたが、現在では、事態をより正しく認識することの大切さから、

- ・いじめを受けている子ども本人が、そのことから受ける精神的な苦痛や心の傷みを感じている、そのこと。

として、これまでより拡大して定義づけている。

したがって、「いじめ」を外部からの行為として、客観的な程度や回数などの度合いでとらえるのではなく、「いじめ」を受けている本人の内面、心の問題としてとらえねばならない。

○新しく拡大された定義の教育上の意義は大きい。

・学校教育で、「いじめゼロ」は

めざすべきものではあるが、ともすれば、そのことが目的となり、現実の子どもへの対応を見失うことがあった。

- ・教育の原点である、子ども一人ひとりを深くみつめて、いま「いじめ」と直面している子どもの苦悩を洞察し、明日への希望を援助しなければならぬ。

苦悩の果ての絶望
が死に追いやる

○精神的に追い詰められ、生きる自信も希望をも失ってしまい、自死を選択する子どもの苦しみは深刻である。

- ・一人の人間が追い詰められていくその内面は多様である。

これまでの生い立ちや日ごろ物事をどのように考えている子どもなのか、その心情の深さはさまざまである。

・子どもの自死に当って、その子の「精神の弱さ」と結びつける考え方は許されない。

・「命をかけての苦悩」であることに気づかせる教育が必要である。

加害者を出さない
教育を

○学校が組織的に被害者を守ることも大切であるが、加害者を出さないための教育をすすめるなければならない。

- ・自分より弱い者への攻撃で、一時的な快楽や安楽を得るという考え方を改めさせる。
- ・人間として他者との関係的存在であることに気づかせ、人生をより深く生きる力を養う。
- ・家庭や地域の大人たちが、「志」を高める教育に努めてほしい。



子どもたちの未来を見つめるために

市民会議常任理事(外ヶ輪校区) 中村 直子

講演で先生が話された子どもたちの話に、胸を締め付けられるほどの悲しみを感じた。

精神的に追い詰められ、自ら命を絶った彼らは、死の直前まで生きたいと思っていたに違いない。

子どもたちは夢や希望を抱き、澄んだ瞳で未来を見つめる。それを、誰も奪ってはならない。

我々大人にできることは、いじめは絶対に許さないという毅然とした姿勢と、どんなときでも子どもの気持ちをつかりと抱きしめることだと強く感じた。

講演会の感想

加害者への視点と対応

市民会議理事(保護司会) 桜井 忠夫

「猿は、いじめにあつても自殺はしない」「加害者と被害者が入れ替わる」「被害者と同じく加害者への視点と対応を」と訴える若井教授の熱弁に会場は静まり返る。

偽物が罷り通る社会にいる青少年の空虚な心に「人間は、様々な多くの人との繋がりの中で生かされて生きていること」を家庭で、学校で、地域で大人達が解らせる努力を続けることだ。

キーワード『大人が変われば子どもも変わる』の言葉の意味は重い。

*「いじめ根絶にいがた県民会議」と共催で開催しましたが、教育分野の第一線で活躍中の若井先生からは、具体的な事例を含めたいへん示唆に富むお話を賜りました。

満席(300人)に近い大勢の市民や教育関係者の皆様からお出でいただき、「ストップ・ザ・イジメ、やめよういじめ 許さないいじめ」の決意を新たにいたしました。

ありがとうございました。

＝家庭と社会の課題＝

いじめと 携帯電話を 考える

「いじめ根絶地域集会」

豊浦中学校区

豊浦中学校をいじめゼロの学校にするには

豊浦中学校

昨年度、当校では問題行動やいじめが頻発し、落ち着いた学習活動が行われていませんでした。

その反省を踏まえ、今年度は安定した学校生活を送れるよう

を構築していくというものです。



青少年健全
育成センター
所長
澤村 陽一

「地域教育力」の醸成を

毎日のように青少年に関する問題が発生している今日、子どもを守り育てるには家庭だけでなく、学校や地域も一体となつて取り組んでいくことは言うまでもありません。

新発田市の平成20年度政策大綱の中の重点施策の一つとして「家庭と地域におけるひとつづくりの推進」があります。これは、「地域教育力」の醸成を目的に家庭・地域・学校が連携できる体制

を構築していくというものです。「地域の子どもは地域で守り育てる」ためには地域住民である大人の自覚が必要でありますし、それを高めていくことが必要であります。

そうした意味では、各地区育成協議会などの青少年関係団体等との連携のもと、活動を展開している市民会議のもつ役割は非常に大きなものがあります。

「新発田市のまちづくり」は市民との協働でありますし、それ抜きでは成し得ません。

市としても市民会議との連携を密にして、また、それぞれの役割を明確にして施策を遂行していきたいと思っておりますので今後ともよろしくお願いいたします。

に、保護者、地域の方の協力をいただきながら、教職員と生徒が一丸となつて様々な教育活動を展開しています。

その一つの取組として、11月30日に生徒会主催の「豊浦中学校いじめ根絶集会」を開催しました。

生徒の手作りのいじめドラマ「連鎖」のDVD上映と生徒・保護者代表によるパネルディスカッションを行いました。

ドラマ制作にかかわった生徒は「このドラマを見て、いじめに



対して真剣に向き合つてほしい。」「役とはいえ、いじめののめいじめられるのも辛かった。」と訴えました。

保護者は「親にSOSを出してほしい。何らかの力になれるはずです。」と切々と語りました。当校のいじめゼロに向けた取組は始まつたばかりです。

携帯電話

パソコンについて

加治川中学校長(市民会議理事)

丸山 雅人

現在、日本は携帯電話やインターネットの普及など高度情報化社会の進展、少子高齢化社会の到来など、社会全体が大きく変動しています。

社会構造の急激な変化への対応のためには、これまで以上に注意を払つていくことが求められています。

子どもたちも携帯電話を多くもつようになり、近年では高校生の九割以上、中学生で三割から六割程度が携帯電話を利用していると言われています。

また、インターネットに接続したパソコンも多く、家庭に広く普及しています。

携帯電話やパソコンは、非常に便利な道具です。反面、使い方を誤れば非常に危険な道具にもなります。

実際、これらを使った犯罪が連日のように報道されています。いくつかの事例を紹介します。

○中学生がインターネットの掲示板で実名をあげられて中傷され、書き込みをした中学生が家裁に書類送致された。

○男子生徒が同級生から殴る蹴るの暴行を受けている様子が動画サイトで公開された。

○携帯電話のメールを開いたところウィルスにかかり、電話帳に登録されたアドレスに勝手にメールが送信された。

学校では、トラブルに巻き込まれないための情報教育等を行っています。

学校への携帯電話の持込みを原則禁止しています。

携帯電話を介した誹謗中傷などのいじめが多発していることから、中学生の携帯電話利用は、基本的に避けてほしいと思っております。

それでも家庭の判断で携帯電話をもたせる場合には、弊害が生じないように、アクセス制限、履歴の管理、料金の確認等を実に行い、適正な利用が行われるように願います。

子どもを育む地域のまとまり

地域に密着した活動を

外ヶ輪小学校区青少年育成連絡会

会長 高橋 大作

私達の育成連絡会は校区内を六つのブロック(中央町・本町・大手町・城北町・緑町・新富町)に分けて、育成会の単独事業のみならず、町内会やPTA、小中学校などと協力しながら、子供達と触れ合うきめ細かい活動を年間を通じて行っています。

また連絡会全体の活動としては、大人が対象の研修会や講演会などを実施し、小中学校区内の下校パトロールにも多くの地域の方々が参加しています。

さて青少年の健全育成は、決して子供達

地域の連携を強める

川東地区自治連合会

育成部長 井上 邦夫

川東地区では、各団体がそれぞれに活動を行っていましたが、少子高齢化・地域の活動離れなど、さまざまな課題が多くなりました。

これらを地区全体の課題としてとらえ、組織の一体化を行う事で地域連携を強め、この課題に取り組む為に、昨年二月に川東地区自治連合会が発足しました。

川東地区青少年健全育成協議会も、川東地区自治連合会「育成部」として新たなスタートとなりました。

だけの問題ではありません。

大人が積極的に参加する姿勢こそ、今一番地域に求められているのではないのでしょうか。

より良い地域が子供を育むという考えを基本に、今後も着実に活動していきたいと思っています。



救急法講習会

この改編により、防犯パトロールの強化・地区内の情報の共有化の面で前進出来たと思っています。

今後、川東地区の活動が活躍し、市民会議での健全育成活動に貢献出来ればと考えます。



川東地区一斉パトロール活動

地区青少年育成協議会の活動

市内16地区育成協議会では、それぞれの地域事情を生かして、特色ある活動を進めています。
(今回は前号に引き続いてお知らせいたします)

○二葉地区

青少年育成協議会

- ・町内クリーン活動、環境調査
- ・夕暮れ時の安全パトロール
- ・おやじの会活動(キャンプ)
- ・会報(すこやか)の発行

○御免町小・一中校区

育成会議

- ・あいさつ運動
- ・あかるい地域づくり運動
- ・環境実態調査

○五十公野地区

青少年健全育成協議会

- ・地域奉仕活動
- ・(花だん整備、清掃、老人ホームボランティア活動など)
- ・小、中連絡会議
- ・会報の発行

○松浦地区

青少年健全育成協議会

- ・環境浄化活動
- ・(実態調査、地域巡回や夜間パトロール)
- ・講演会、研修会
- ・あいさつ運動
- ・会報の発行

○米倉地区

青少年健全育成協議会

○川東地区

自治連合会育成部

- ・校区5区域の活動
- ・「米倉大鼓」参加
- ・校内清掃、クリスマス大会
- ・ボウリング大会

○七葉中学校区

すこやか育成会

- ・地区全体
- ・(講演会、生活指導主任・生徒主事会、防犯パトロール活動等)
- ・七葉小学校区
- ・(ウォークラリー、地域美化活動)
- ・菅谷小学校区
- ・(グランドゴルフ、餅つき大会、地域美化活動)

○さわやか佐々木っ子育成会

- ・環境調査
- ・街頭補導
- ・佐々木コミュニティ盆踊り大会
- ・親子ふれあい事業、冬祭り
- ・講演会
- ・会報の発行

子どもたちに新たな体験と感動を

◇屋外での自然とのふれ合いや、さまざまな人たちとのふれ合いをとおして、子どもたちはものの考え方、生活の知恵を身につけて育ってまいります。



スキー訓練(ニノックス)

ボーイスカウト活動は、世界の二百十六の国、加盟員二千八百万人で行われている地球規模の活動で、今年で一〇〇周年を迎えます。

当団でも異年令の子供達で構成される各隊では、ハイクやキャンプ、スキーなど野外の活動の場を通じて、健全な身体と共に協調性や責任感、奉仕の心を養うことを目指しております。

運営の方法は各団それぞれで異なりますが、当団では、指導者には保護者が養成講習によってその資格を得て当たり、野外活動時の人員輸送や行動の補助役、食事作りには、保護者の皆さんの協力をお願いしております。

全員参加型の手作りの活動をみんなで楽しくやっております。

「ボーイスカウト活動」

日本ボーイスカウト

新潟連盟新発田第一団

団委員長 高橋

剛

地域で育む地域の宝

豊浦地区青少年健全育成協議会

会長 渡邊 信明



心の静寂 座禅

子ども達を取り巻く環境は日進月歩で刻々進歩している。一昔前までは携帯電話、インターネットなどは夢物語であった。

このような時代の子どもの育成に、各団体や諸機関が日夜努力を重ねておられる事に敬意を表する次第であります。

さて、子どもは学校で知・徳・体・食育で、家では家族愛や睦を会得し、地域や集落からは、生きる力やルール等を学びながら、三位一体の下で大人へ成長していくと思うのは私一人でしょうか。

学校教育の『総合的な学習の時間』の中で、地域の誇れるもの、興味あるものを見学・体験する学習の一環で毎年、私のお寺へ来て頂いております。

玄関でジャンパーを脱ぎ、靴を揃えて上がる事から始まり、正座でのご挨拶、お茶を頂きながらの茶話会では、まだ緊張がほぐれない様子の質問コーナー。

続いて我慢できるまで正座で般若心経の写経を、さらに姿勢を正して静寂の中で座禅、終わりに警策を肩に受け、余興には、私のマジックショーと簡単マジックのタネ明かしで、二時間の体験を終了。

今度の新学習指導要領改定案では『総合学習の時間』の削減が発表された事は残念である。

少年団体交歓会「わくわく合宿」開催!!

市民会議では健民少年団とともに少年団体や一般の児童生徒を対象にした「わくわく合宿」を行いました。

◇とき 平成19年11月10日(土)～11日(日)

◇ところ 新潟県少年自然の家(胎内市)

◇内容 サバイバルめし炊き、わくわくゲーム、グラウンドゴルフ、野外炊事など

◇参加者 児童、生徒 82名 指導者 18名

アルミ缶を使用した非常時用のごはん作りやゲームなどで交流を深め、楽しい合宿のひと時を過ごしました。

合宿の感想

一般参加 小四 女子

今日、私はいろんな人と協力し、楽しく遊びました。そして、チームのみんなと仲よくなりました。わたしは、合宿が大スキなので、とっても、楽しかったです。ごはんも上手にたけたので、よかったです。私は、また行きたいです。

新発田地区

緑の少年団

小五 男子

ぼくが一番楽しかったことは、サバメシです。ごはんをはじめ自分であいてみたのでとてもきんちょうしました。でもつくったとしてもおいしかったです。来年もまたあるといいです。



サバイバルごはんの昼食

めあてをもって、 輝く子どもたち

BSN杯県中学校選抜 新人バスケットボール大会 (1月27日)

本丸中学校(男子)が優勝
紫雲寺中学校(女子)

本丸中学校
バスケットボール部(男子)

「心をこめて」

部長 山宮 弘毅

私たちの目標は日本一です。本丸バスケット部は、「勝つておごらず、負けてもくさらず」という精神の下、一人一人が「日本一」という目標に向かい富樫先生と共に、日々練習に励んでいます。

去る一月、新チームの第一歩として臨んだ県大会ではチーム一丸で闘い、優勝することができました。しかし、課題もたくさん見つかり、とてもいい勉強になりました。

夏までには、様々な課題や弱点などを克服していきます。そして最終目標に向け、本丸の誇りを胸にチーム一丸となつてが

紫雲寺中学校
バスケットボール部(女子)
「心をひとつに」

主将 加藤 亜美

昨年の12月23日。山形県で行われた大会の決勝で35点差で敗れ、その悔しさから「1日1点ずつ返していこう」と35日間連続で練習に取り組みました。その35日目がいよいよ県新人大会にあたり、絶対優勝しよう、心をひとつに笑顔で優勝を合言葉に臨みました。

その結果、決勝は最後の最後まで競り合いましたが、笑顔を絶やさず戦い、接戦をものにす

んばります。

八月に地元で開催される全国大会では、最高のプレーでのぞみますので応援よろしく願います。



チーム一丸となつて

ることができました。

しかし、私達はこれで満足していません。私達の目標は「笑顔で全国制覇」です。

この夏、地元で全国大会が開催され、全国の強豪チームが新潟に集結します。

その大会に向け、チーム一丸となり、笑顔で目標を達成したいと思います。



夢は全国制覇！！

中央高等学校

第27回チャリティーキャンペーン演奏

れました。

昭和五十六年にスタートした、中央高等学校「チャリティー・キャンペーン」演奏会が、第二十七回を迎え、昨年暮れの十二月二十三日、満席の市民が参加して行われ、

中央高等学校「チャリティー・キャンペーン」演奏会が、第二十七回を迎え、昨年暮れの十二月二十三日、満席の市民が参加して行われ、



伝統のチャリティーキャンペーン

東豊小学校

マーチングバンド・バトントワリング 全国大会金賞

金管部部長 岩瀬 明日香
ます。

これからは四、五年生にこの三年間で学んだことを教えていきたいです。そして中学校では金管部での経験を生かしていきたいです。

おわりに

「いじめ」と「携帯電話」の問題がいま、中、高校生の生活を歪め、安定を失わせている状況があります。

若井先生は、子どもたちに「人生をより深く生きる力」高い志をもって生きることの教育が、家庭と社会の課題であると結んでおられました。

一方、学校や地域の力で自己の向上に励んでいる子どもたちも多く、「めあて」への努力を応援しなければと思います。(横坂)

編集部

弘子み子緑
宣奈さ富
坂田原辺田
槇吉大渡金

